

令和7年度指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名 称	大畑中央公園	
指 定 管 理 者	団 体 名	一般財団法人むつ市教育福祉振興会
	代 表 者	理 事 長 村 田 尚
	所 在 地	むつ市大畑町観音堂25-1
指 定 期 間	令和5年4月1日～令和8年3月31日（3年間）	
指 定 管 理 業 務 の 概 要	<p>管理業務の目的</p> <p>条例に掲げる施設の設置目的を達成するために計画的かつ効率的な施設管理を実施するとともに、市民の健康増進並びにスポーツの振興により生活や文化の向上に寄与することを目的とする。</p> <p>管理業務の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設運営に係る使用の許可及び利用料金の徴収に関すること。 ・大畑中央公園の施設管理維持に関すること。 ・大畑中央公園の広報及び利用促進に関すること。 ・スポーツを通じて地域住民の健康及び体力の向上のための施設提供に関すること。 ・上記に掲げるもののほか施設管理上必要と認められる業務に関すること。 	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

(単位：千円)

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (② - ①)
収 入 合 計 (A)	50,761	50,742	71
うち利用料金額	2,210	1,107	▲1,103
うち指定管理料	48,461	49,635	1,174

支出合計（B）	50,761	54,087	3,326
うち人件費	24,204	27,241	3,037
収支差（A－B）	0	▲3,345	▲3,345
市への納入金	0	0	0

計画額と比較した
実績額の増減理由

○収入について

計画と実績の増減については、「2 収支の状況」及び「3 施設利用の状況」に記載した表のとおりである。

「2 収支の状況」中、利用料金額収入は伸び悩み、計画額 2,210 千円に対し 1,107 千円の収入となり、達成率は 50.1%に留まった。

「3 施設利用の状況」中、野球場、庭球場においては利用者数が前年より増加したものの、全施設において計画人数には至らなかった。

施設ごとの利用状況等は、別添「事業報告書 添付資料」の「事業別決算書」、「指定管理事業 利用者実績及び収入明細書」に示してあるとおりである。

陸上競技場については、利用者数は、計画人数 4,300 人に対して 2,687 人の利用であり達成率は 62.5%、利用料金収入は、計画額 150,000 円に対して 74,990 円であり、達成率は 50.0%であった。前年と比べると利用者数は 6 人、利用料金収入は 1,860 円減少した。

次に野球場については、利用者数は、計画人数 2,400 人に対し 3,237 人の利用であり達成率は 134.9%、利用料金収入は、計画額 190,000 円に対して 145,200 円であり、達成率は 76.4%であった。前年と比較すると利用者数は 939 人、利用料金収入は 24,310 円増加した。

次に庭球場については、利用者数は、計画人数 600 人に対して 152 人の利用であり達成率は 25.3%、利用料金収入は、計画額 70,000 円に対して 28,250 円であり達成率は 40.4%であった。前年と比べると利用者数は 64 人増加し、利用料金収入は 12,500 円増加した。

最後にプール施設については、利用者数は、計画人数 9,000 人に対して 5,367 人の利用であり達成率は 59.6%、利用料金収入は、計画額 1,800,000 円に対して 859,310 円であり、達成率は 47.7%であった、前年と比較すると利用者数は 407 人減少し、利用料金収入は 60,010 円減少した。

○支出について

「2 収支の状況」中、支出合計の実績額が計画額より 3,326 千円増となった。要因は、人件費実績額が、計画額より 3,037 千円増となったことが主な要因となっている。

また電気代、燃料費の高騰も大きく影響した。プールで使

	<p>用する灯油については、プール内の温度管理を徹底し節約に努めたが、予算額を超過した。</p> <p>電気料についても、東北電力DRサービスに参加し節電に取り組んできたが、高騰が大きく影響し予算額を超過した。</p>
--	---

3. 施設利用の状況

(単位：人)

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増減 (②－①)
利 用 者 数	野球場	2,400	3,237	837
	庭球場	600	152	▲448
	陸上競技場	4,300	2,687	▲1,313
	プール	9,000	5,367	▲3,633

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (☑・無)

意見箱を設置して利用者の声を収集し、利用者ニーズの把握に努めた。令和7年度は意見箱に寄せられた声はなかった。また、意見箱等とは別に、8月上旬から2週間にわたり利用者アンケートを実施した。

4. 自主事業の実施状況

(単位：人、千円)

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
スポーツ振興事業・水泳教室	804	588	587
スポーツ振興事業・着衣水泳教室	16	8	33
スポーツ振興事業・ルネィックウォーキング	29	10	32
スポーツ振興事業・グラウンド・ゴルフ大会	91	50	102
スポーツ振興事業・熟年軟式野球大会	108	40	31
スポーツ振興事業・少年軟式野球大会	265	52	106
スポーツ振興事業・冬のイベント	132	60	61

5. 個別項目評価※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A (優良)：計画された業務水準を大きく超える独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B (適正)：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮	B	B

評価項目	自己評価	市の評価
したか。		
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤指定管理者は当該評価期間における自己評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、改善策も記載すること。

事業経営については、指定管理者として使命である施設の活性化、サービスの向上について取組んだ。

施設の活性化につながる自主事業は、7つの事業を実施した。

水泳教室は、5月から11月まで計画どおり実施できた。プール施設の利用の機会を増やすとともに、健康増進及び水泳の競技人口増加につながるきっかけづくりとして役割を果たした。

水の事故が増える7月には着衣水泳教室を実施した。防災教育としての側面があり、参加者に水難への備えについて伝えることができた。

ノルディックウォーキングは、5月、9月の2回実施した。5月は公園内をウォーキング、9月は大畑中央公園から木野部峠を周回するコースをウォーキング、10月は薬研遊歩道コースの散策を計画したが、下北地域で熊の出没が多発したため中止とした。開催前には実地踏査を行い、危険箇所や歩行時間等の確認を行い安全確保に努めた。

グラウンド・ゴルフ教室は、5月～10月の毎月第2、第4水曜日に実施し、初心者から経験者まで大いに盛り上がった。

熟年軟式野球大会は、むつ市内からチームを募り（満40歳以上、満60歳未満）、5月から10月の期間で、4チームによる総当たり2回戦（6節全12試合）で実施した。

少年軟式野球大会は、あさひな杯・第7回を開催した。むつ下北地域のスポーツ少年団7チームによる、2日日程のトーナメント戦を開催した。天候にも恵まれ、熱戦が繰り広げられた。

冬期間には、3回目となる冬のイベントを開催した。野球場を会場として、雪だるまを作り、雪灯籠やイルミネーションで飾り付けをしてフォトスポットとして開

放した。

これらの事業を計画とおり実施できた結果、施設全体の利用者数は令和6年度の10,853人に対して令和7年度は11,443人と前年を上回る結果となった。

サービスの向上については、8月に実施したアンケートをもとにプール更衣室の利便性、快適性の向上に取り組んだ。プールは女性の利用者が多いため、女子更衣室のシャワー室にフックを設置するなど改善に取り組んだ。

今後も、これまで当施設を管理してきた経験を活かしながら、安心・安全で効率的かつ、効果的な施設運営を行うこととしている。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

- ・特にプールの利用者数の減少が前年に比べ大きいことが課題であるが、公共施設や教育機関への広報活動で利用促進を図るとともに、自主事業も積極的に実施することで施設の有効活用とPR活動に努めた点を評価する。
- ・全体的に経年による設備等の不具合が目立っているなかで、軽微な補修は自己修繕で対応することで修繕料の節減に励んだ点を評価する。
- ・職員管理については、各種訓練を計画的に行っており職員の資質および意識向上に取り組んでいる点を評価する。引き続き職員の資質及び意識向上に取り組むことで、利用者の方へ質の高いサービスの提供につながることを期待する。